

第2号様式（第3関係）

平成27年度第3回豊山町生涯学習推進審議会会議録

- 1 開催日時 平成28年3月23日（水）午前10時から
- 2 開催場所 豊山町役場 3階 会議室3
- 3 出席者 豊山町生涯学習推進審議会委員
委員：高橋真、一木直久、宮沢洋子、山田久美子、岡島千衣子
河村恵美子、岡島剛、谷口富士子、大野容子、大野純子
（欠席）石黒俊彦
事務局：西川徹教育長、飯塚泰行事務局長、秋田和清係長
安藤彬主事
- 4 議題 (1) 生涯学習講座アンケートについて
(2) 平成28年度豊山町生涯学習まちづくり基本計画・実施計画について
(3) 平成27年度生涯学習講座受講状況について
(4) その他
- 5 会議資料 ・生涯学習講座アンケートについて (資料No.1)
・平成28年度豊山町生涯学習まちづくり基本計画・実施計画について (資料No.2)
・平成27年度生涯学習学級講座受講状況について (資料No.3)
- 6 議事内容
(司 会) 本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。
只今より、平成27年度第3回豊山町生涯学習推進審議会を始めさせていただきます。なお、本日委員のうち、石黒委員におかれましては、出席できない旨、連絡がございましたので報告させていただきます。それでは、会議に先立ちまして、谷口副会長よりごあいさつをいただきたいと思います。よろしく願いいたします。
(副会長) おはようございます。今日は石黒会長が体調不良と言う事で、代役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
(司 会) ありがとうございます。続きまして、教育長からあいさつをさせていただきます。

(教育長) おはようございます。

平成27年度第3回豊山町生涯学習推進審議会にご出席くださいましてありがとうございます。今年度も後、9日となりました。先週の金曜日に3月議会が閉会しました。3月議会というのは予算議会といわれる議会で、予算を決定する議会になります。その中で感じたことなのですが、MRJに関わる航空宇宙産業により、豊山町は裕福でいいなという話をされるのですが、まだまだ財政的には厳しい状況にあります。町長は千載一遇のチャンスで、この時を逃してはいけない、飛躍の年に今年はしたいということをよく言われます。予算に関しては非常に厳しい状況でありました。教育委員会全体としては減っていますが、工事の関係で減ったということです。生涯学習関係は、昨年なみの予算がついたことは幸いであると思っています。有効に執行していきたいと考えています。本町の生涯学習は「生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画」をもとに進めております。本日は、28年度以降の実施計画をご審議いただきますが、作成に際しては、生涯学習係以外の他部局、保健センター、総合福祉センターなどと調整を行ってきました。

委員の皆様方、どうぞよろしく申し上げます。

(司 会) ありがとうございます。それでは、これより議事に移らせていただきます。この審議会の議事録は町のHPに掲載される事をご了承ください。取り回しにつきましては、審議会条例第7条第1項の規定に基づきまして、副会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(副会長) それでは、議事を進めさせていただきます。議題(1)の「生涯学習講座アンケートについて」事務局より説明をお願いします。

(事務局) ～生涯学習講座アンケートについて～
資料NO. 1により説明

(副会長) アンケートの集約についてご意見はございますか。

(委 員) 確認なのですが、生涯学習講座のアンケートの取り方についてなのですが、前回聞いた時は講座を行ったときにみえた方にアンケートを行ったと聞きましたが、このアンケートも受講された方にとったアンケートなのでしょうか。

(事務局) こちらは受講される前の申込時のアンケートです。昨年度受講した方にアンケートを取りましたが、講座を受講したくて申し込んだ方なので非常に好意的な内容となっておりますので省略させていただきました。こういった講座を続けてほしいという方がほとんどでした。

- (委 員) 申込された方と言う事はイコール受講者ということですよ。
- (事務局) そうです。こちらは全ての講座を対象に、申込の受付時にとったアンケートになります。ですのでいろいろな講座を網羅しています。生活に興味のある方、スポーツに興味のある方、いろいろな意見を集約してあります。
- (委 員) それは違いがあるのですか。申し込んだ人は受講生であってアンケートをとるタイミングが変わっただけではないのでしょうか。
- (事務局) 趣味、スポーツ、教養といった各分野を全て合わせたアンケートになります。
- (委 員) 普段はどういうアンケートを取られていますか。
- (事務局) 講座の修了時にとっています。非常に好意的でしたので結果報告からは省かせていただきました。
- (委 員) 二重にとったということですか。
- (事務局) 昨年度についてはそうなります。今年度についても同様です。
- (委 員) 経験する前と経験した後ということですね。
- (委 員) このアンケートは受講前のアンケートです。
- (委 員) 普段はいつとっていますか。
- (事務局) 講座の最終回です。
- (委 員) 割愛されたのは。
- (事務局) 受講後のアンケートになります。
- (委 員) ちょっと質問なのですが、申し込んだ人は受講したんですよね。
- (事務局) 結果的にはそうです。
- (委 員) そうすると受講前と受講後で感想は違うかもしれないが、同じ人にとっているということですよ。
- (事務局) まず4月の募集の際に生きがいタウンを見られて申込にみえるわけですが、そのときに限られた紙面しかないなのでこの他にこういったものが有るといいという希望がでます。
- (委 員) 申込に来た方にとるんですよ。
- (事務局) そうですね。
- (委 員) ほとんどのみなさんが申し込まれる訳ですよ。
- (事務局) 受講しようと思っても定員いっぱいを受講できないといったこともあると思います。今係長が言ったのは受講後のアンケートについては皆さん希望して参加されたので相対的にすごく評価がよかったので、それでは意味がないという事で割愛しました。
- (委 員) これは申込の方たちのアンケートですよ。この方たちと、実際に受講した方とはどれだけ誤差があるのでしょうか。

- (事務局) 申込と言うのは4月に生きがいタウンをみて、これに申込みたいという時に、受付をするのですが、その他にこんな講座を求めているというアンケートです。
- (委員) 申込時にとるアンケートですよ。申し込んだ人、そうでない人の2種類にとったアンケートということですか。
- (事務局) そうです。
- (委員) 申し込まなかったけど興味がある、申し込んだ人数差はどれくらいありますか。申し込みたかったけど希望する者が無かったり、定員で申し込めなかったりした人の差はどれくらいありますか。
- (委員) 人数の問題ではなくて、内容が大事です。申込時に聞くのは、学習講座全体の事であって、受講された後に聞くのは、その個別の講座についての印象なので内容としては違います。そのため人は一緒でもアンケートとしては違うものになります。
- (委員) 人間的には変わらない気もします。私が人数に拘るのは、興味を持っている方にアンケートを取ってらっしゃるようですが、私が願っているのは、興味を持っていない潜在的な方にどれだけアンケートを取ってくださっているのか、その方向性が欲しいから言っています。来ている人は受け皿を作るだけでいいです。来ていない人にアンケートを取らずに受け皿を作れないというのはどうかと思います。来ていない人にもアンケートを取って、今は興味ない人が持っているかもしれない学習意欲を取り上げて欲しいと思って発言しています。そういった方にアンケートを取っていく、そういう方向性があるか聞かせて欲しい。そうすると豊山町が生きがいを持てる生きがいタウンになっていくのではと考えています。
- (委員) 新しい考えだと思います。
- (委員) 本意が分かってもらえれば嬉しいと思います。方向性としてどういう思いがあるのか聞かせて欲しいと思います。
- (委員) 他にこのアンケートについてご意見、ご質問等がありますでしょうか。
- (委員) 30何人というのはちょっと少ない様な気がします。人口は一万四千人でしたか。
- (事務局) 資料3になりますが、豊寿大学では全員にアンケートを書いて貰えば対象が60歳以上ですので、もっと多くなるはずですが、書いていただけない方もみえるのが実情です。また小さなお子様をお連れの方も難しいところがあります。
- (委員) 受講したら恩恵を受けた分、アンケートを書いて貰うべきだと思います。

- (委員) そこまで意識がっていないと思います。
- (委員) アンケートを取る際に上手にお願いして欲しいと思います。上手なアンケートの取り方も研究して欲しいと思います。潜在的な需要の取り込み方をどういう風に考えているのか御返答いただきたいと思っています。アンケートの取り方も町民全体の意見を反映できていないから工夫して下さいと前から言っています。そのため申込時という変更になったと思いますが、それでも41名と少ないです。一万四千人に対して41名ではどれだけ住民の意見をくみ取れるのか疑問に思います。ぜひ皆様の気持ちあってこそその生涯学習だと思いますので、来た人だけの生涯学習ではなくて、一万四千人を見据えたアンケートを叶えて欲しいと思います。町の職員として給料をもらっている方の考えることだと思います。
- (事務局) 委員のご意見はごもっともですが、お金をかけてやっている以上多くの方にご参加いただいてやっていきたいと思っております。アンケートの取り方についても少しずつ改善して行きます。具体的にはまだ分かりませんが、この講座は人が少ないので声掛けをしたり、別のアンケートで項目を一つ作って意見を聞くといったことを行っていこうと考えております。
- (委員) 前向きな言葉ありがとうございます。
- (副会長) 他にご意見はございますか。無いようですので議題1の生涯学習講座アンケートについては議案通り承認してよろしいでしょうか。(拍手) ありがとうございます。
- (副会長) 次に議題2平成28年度豊山町生涯学習まちづくり基本計画・実施計画について事務局より説明をお願いします。
- (事務局) ～平成28年度豊山町生涯学習まちづくり基本計画・実施計画について～ 資料No2により説明
- (副会長) 何かご意見はございますか。
- (委員) 子どもの読書活動の推進について27年度で終って次が28年度から32年度までとなっているが、具体的には何が変わったのか。今までと違うような内容があるのか。
- (事務局) 平成22年度に策定しました子ども読書活動推進計画につきましては社会教育センター図書室と学校図書館との連携ですね。
- (委員) 新しい方ですか。
- (事務局) 古い方です。具体的な目標を立てたのですが、達成できたのは学校の図書館の整備の関係で、手で管理されていたものが、変わりました。
- (委員) 聞きますとしいの木とか子供の文庫があったり、お隣は読み

聞かせを長くやられてみえますけど、具体的に整備とか、専門的な立場の方も必要になりますよね。具体的なものはない訳ですね。

(事務局) そちらにつきましては子どもに対する読書活動推進ということで連携を行っております。要するに社教センターの図書室で蔵書を廃止する際にそういった施設へ優先的に配布しております。

(委員) 言葉は悪いですがその程度変更ということですか。

(事務局) 児童施設については蔵書数も貸し出し数も少ないのでそういう事から行っております。

(委員) 私も本の好きな子にというテーマで原稿依頼があって書いた記憶があって、永遠のテーマです。非常に活字離れということでいろいろなところで力を入れてやり始めている市町をちらほら聞くので豊山町も何か始めたのかと思って質問しました。

(事務局) 最初の廃止した計画では、学校図書館含め蔵書検索をインターネットで相互に出来るようにすることを考えましたが、それについては出来ないという結論に至りました。費用の面などもございます。

(委員) そこで費用がでますね。

(事務局) 人的問題もありまして、出来ないということになりました。地域の連携については引き続き学校図書館と福祉施設の図書分野の連携を続けていきます。

(委員) 分かりました。

(事務局) より充実させていこうという内容になっています。

(委員) ありがとうございます。

(事務局) 学校の方ではコンピューターのシステムを導入しました。それを使って自分がどういう本を読んだのか、そういうのが分かるように整えました。ただ学校の先生も本にバーコードを貼るとかそういう作業が追いつかないということでまだ活動されていないのですが、今後は本の検索も楽になりますし、期待しております。もう一点は各学校に図書館司書を置くということが最近多くなってきておまして、学校で12クラス以上あると置かなければならないというような基準も設けられております。そういった関係で一気に四校は無理なので、今考えているのは一人雇って一週間に一回でも回って、子どもたちに本の情報提供などを働きかけるということを考えておまして、来年度予算要求していきたいと考えています。

(委員) 来年度ということは29年度から実施ということですか。

(事務局) 早ければそうなります。

- (委員) 司書教諭とは別に専門の人を雇って四校を回るということですね。
- (事務局) 最初はそういった風にやっていきたいと考えております。
- (委員) 整備されないよりはいい。
- (事務局) 少しでも増えるように働きかけは行いますが、今の段階では基本的な考え方ですので、ご理解いただきたいと思います。
- (委員) 10ページについてですが、相談があれば相談に乗りましょうという非常にいい計画だと思いますが、そういうものの相談があったり、出来上がったよというものがあればお聞かせ願いたいです。
- (委員) 皆さんご存じないのはこういうことをやっているの、さっきの話に通じるのですが、生涯学習の活性化ということで、前々から提案されています。いつも聞いていて虚しくなるが、そういうことの相談があったり、成立したりするのがありますか。無いということですかね。
- (事務局) 正直申し上げて少ないです。ボランティアバンクに登録していただいて…
- (委員) ボランティアバンクにはずらっと登録されていますよね。
- (事務局) 子ども向けのことをやりたいという方にはふれあい広場をお願いし出来ないかということで声をかけています。来年度は3つ新たに開講します。
- (委員) 分かりました。
- (副会長) 後はよろしいですか。議題2について提案どおり承認してよろしいでしょうか。(拍手)
- (副会長) 続いて議題3平成27年度生涯学習学級講座受講状況について事務局より説明をお願いします。
- (事務局) ～平成27年度生涯学習学級講座受講状況について～資料No3により説明
- (副会長) 今のことについてご質問はありますか。
- (委員) 幼児のいろんなイベントに人気があるようですが、いっぱい断っているような状況なのか、ギリギリOKなのか。
- (事務局) 乳幼児学級については定員がございません。事前申込という形をとっています。幼児体操教室につきましては定員を超えた指導は難しいということで、断っているという状況も発生しています。幼児を含めた子ども向けは人気が高いです。
- (委員) それに引き換えオープンキャンパスが寂しいですね。
- (委員) 難しくついていけないかと思いました。
- (委員) そんなことはないですよ。面白いですよ。
- (事務局) 補足ですが、28年度の愛知学泉大学のオープンキャンパス

につきましては日曜日開催で幅広い年齢層で子どもも参加してもらえるようにいたしました。高橋委員にご協力いただきまして日曜日に開催させていただきます。大学のほうにお邪魔して開催を予定しています。詳しいことは4月に発行いたします生きがいタウンに掲載いたしますのでご覧いただければと思います。

(副会長) 他によろしいですか。無いようですので、平成27年度生涯学習講座受講状況について提案どおり承認よろしいでしょうか。(拍手) それでは議題4その他についてなにかありますでしょうか。

(委員) 28年度の基本計画・実施計画について拍手をしませんでした。何故かというところ前回第2回的时候にアンケートをとっていただいて、その結果を作っていただいています。このアンケートをとって28年度にどれだけ活かすことが出来たのか分かりませんでした。アンケートをとってどこに反映されたか、どういったことを検討中であるかそういった所をはっきりさせて欲しい。読み上げていただいて反映部分、していない部分、検討部分をはっきりさせて欲しいと思います。

(事務局) 生涯学習推進審議会委員アンケート結果により説明

(委員) どのように反映されたか教えて欲しい。

(事務局) 先ほどお答えさせていただきましたとおり、今後の事業の計画立案にアンケート結果を検討して活かして生きたいと思っています。

(委員) 平成28年度の計画を立てるためにアンケートを取ったのであって、検討中とか不可能とかあると思いますが、一言で済ませられるようなものですか。

(事務局) オープンキャンパスについては日曜日に変更することで幅広い年齢の方に参加していただけるようにいたしました。他につきましては他の団体で行われているものもありますのでそういった部分を加味して進めて行きたいと考えております。

(委員) 生きがいタウンの情報を元に講座の申し込みをしているようです。30代40代は小学校を通じて配布されている方がメインなのでは。そこからもれている50代にどうやって届けるかが課題だと思います。情報を届けることに費用を割いて欲しいと言いましたが、北名古屋市では情報誌をどのように届けていますかと聞いたらシルバー人材センターに依頼して各家庭に届けているということでした。

(事務局) まず配布方法ですが、前にもありました通り、以前は広報紙に折り込んで配布しておりました。全世帯に配ってもほとんど

資源ごみになってしまうということでした。そういった経緯があつて、新聞店による配達に切り替わる際に、生涯学習情報誌は欲しい方が取りに来てもらえばいいだろうという事で発行部数も減らしました。そのため以前のように全戸配布するという事は考えておりません。

(委員) 受講生が小中学校生の親が受講しているという現実があつて、他の年代にも他の年代には情報を提供しようということは考えられないのでしょうか。

(事務局) アンケートのところで説明させていただいているとおおり、高齢者や乳幼児をお持ちの方にはアンケートに答えて頂けなかったということがあります。公共施設の窓口、社会教育センターなどでは取りに来ていただいております。十分届いていると考えております。高齢者向けや乳幼児向けの講座の受講率も高いです。そのため十分であると推測しております。

(委員) 北名古屋市の教育委員会の方針とかを聞いて北名古屋市を羨ましく思いました。届いているだろうではなく実際に届けるというのが行政の仕事だと認知しているわけですね。豊山町は届いているだろうという事で進めている。どんな人でも居ながらにして情報が手に入るそういう風にして欲しいと思います。それともう一つ、他市町との相互受け入れの講座の検討と、情報の交換についてはどうなっていますか。

(事務局) 相互受け入れは各市町自分のところの市民を対象に行っております。県レベルのものは別です。

(委員) 働きかけはしたのですか。

(事務局) しておりません。

(委員) 何故していないのですか。従来のやり方では町も変わらないし、近隣市町も巻き込めないと思います。

(委員) 私は町の行政改革推進委員をやっております。他の市町村との関係を更新しましょうということになっています。その中にこれも入ることだと思います。行政の関係というものは広い立場で考えないといけないので、その中に入っているという事でスキップされたと思います。

(委員) スキップすることはいいのですが、そういったところへ議題として出すために係内で話し合いがされてないように思われます。アンケートを取ったらそれを活かすようにしてもらいたいです。

(事務局) 委員の意見を反映してこれまで11月に行っていた第2回の会議を予算前の9月に行いました。アンケートも取らせていただきました。すぐに全てを反映するのは困難なのでわずかです

が、皆様がやりたいことを取り入れて、講座の状況を見て参加の少ない物は変更しました。すぐに影響が有るわけではありませんが、今回のアンケートの結果は活かしております。他市町との連携については会議等で担当者は様々な情報を交換しております。講座も担当が一人で決めるのではなく、他市町の状況を見ながら計画を作成しております。人的な問題などもありますので、ご理解いただきたいと思っております。今後もアンケートを活かしながら進めていきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

(副会長) これをもちまして会を閉じたいと思っております。ありがとうございました。

(事務局) 副会長、取り回しありがとうございました。本日は、長時間にわたりありがとうございました。これをもちまして、第3回豊山町生涯学習推進審議会を閉じさせていただきます。

上記のとおり平成27年度第3回豊山町生涯学習推進審議会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの会議録を作成し、会長及び出席者1名が署名する。

平成28年4月22日

副会長 谷口 富士子

署名人 岡島 千衣子